ひょうご人権ジャーナル

ひろげよう こころのネットワーク

きずな

KIZUNA

2017
平成29年
3

特集テーマ いのち

つながるいのちを感じて

2 のじぎく文芸賞 詩部門最優秀賞「輝け」
内藤 廉哉さん（姫路市立香寺中学校2年生）

3 「生死を超えた『いのち』は生きていく力」
細井 順さん（公益財団法人近江兄弟社ヴォーリズ記念病院 ホスピス長）

4 「子どもの自殺を一人でも少なくするために」
阪中 順子さん（学校法人四天王寺学園小学校中学校 カウンセラー）

5 「〝人〟を大切にする支援」
稲葉 滉星さん（神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti 代表）

6 「1000人プロジェクトにご協力ください！
～2020年、日本中に『絵本アートセラピスト』を増やすために～」
更家 なおこさん（一般社団法人道しるべ 理事）

7 「『人身取引』への理解を深める」
吉田 容子さん（市民共同法律事務所 弁護士）

8 情報ぷらざ

兵庫県マスコット はばタン

兵庫県・（公財）兵庫県人権啓発協会

多発する自然災害や、いじめ、虐待、過労死などの人命軽視の事件、自殺など私たちの周りには、「いのち」に関わる多くの問題が生じています。
本号では、「いのち」の尊さを感じ、みんなで支え合える社会について考えてみましょう。

のじぎく文芸賞 詩部門 最優秀賞

姫路市立
香寺中学校２年生 内藤（ないとう） 廉哉（れんや）さん

「輝け」

目覚まし時計が鳴った
目を開けると見慣れた景色が
いつもと違って見えた
薄い霧がかかっているようだ
体が重い
食欲がない
無理に口に押し込んでみたら
なぜか何の味もしなかった
その日から勉強も部活もやる気が
出ない
大好きな読書もどこを読んでいるか
わからなくなる
ぼくはどうしてしまったんだろう
いつもの自分ではない
笑うことができない
いつも楽しいと思っていたことが
全く楽しくない

ふとほたるを見たくなった
家の近くの川沿いを歩いた
暗闇の中に小さな光が一つ二つ
いつのまにか小さな光に囲まれて
たたずんでいた
光は輝いている
命の輝きだ
ほたるの小さな命の輝きとともに
ぼくの命も輝きだした
無性に走りたくなった
川沿いを走るぼくの額に汗がにじむ

目覚まし時計が鳴った
目を開けると見慣れた景色が
いつもより輝いて見える
体が軽い
朝食を勢いよく口に放り込み
「いってきます」
と大声をかけ学校へ走っていった

内藤 廉哉さんのコメント

最優秀賞に選ばれて、ものすごくうれしいです。この詩は中学２年生になってすぐの頃に感じたことを書きました。今思いだしても本当にしんどかった時期で、なぜそうなったのか、いまだにわかりません。その時の心のしんどさと、蛍を見て輝きだした僕の心の変化をどうやったら表現できるか、すごく悩みました。あれからぼくの心は輝いたままです。いろんなことに挑戦して頑張っています。

生死を超えた「いのち」は生きていく力

公益財団法人近江兄弟社
ヴォーリズ記念病院 ホスピス長
細井（ほそい） 順（じゅん）さん

死にゆく人を見つめて

ホスピス※では、主にがん末期の患者さんの様々な苦悩につき合います。私どものホスピスでは、入院患者さんの8割は一ヵ月ほどの間に旅立っていかれます。年間を通すと26日に一人という割合です。

数多くの死を間近にして感じることは、「人の一生は、たとえどんな人生でも奇跡と呼べるものではないか」ということです。生きていることの不思議さです。私自身も、がん手術を受けた経験がありますが、他の患者さんたちは旅立っていくのに、私はなぜこの世に残るのか。その理由を探しても得心できるものは見当たりません。この世にやるべきことがあるから死ねないというような、自分に都合のいい理由をつけてみました。しかし、私よりもずっと世の中のためになっている人たちもホスピスから旅立っていかれます。

死を間近に感じたとき、人間は自分自身を見つめるようになります。自分ということについて思い巡らします。そこで得られた答えは、「人間って、自分のためには生きられない動物なんだ」ということです。つまり、人間は他者との関係性の中でしか人間でいられないのです。人間は自分ひとりだけでは生きていけないし、死んでもいけません。かならず誰かに見守られていないと自分であることはできないのです。社会的動物なのです。

そうでありながら、人間同士が仲良く暮らしていくことは至難の業です。動物である以上、個体の生命を維持するためには他の個体を食いものにしなければなりません。しかし、他者を食いものにできたとしても、いつかは自分も死ななければならないのです。人間は死ぬということでは、誰もが同じです。死は別れですから、ひとりでは生きることができない人間には悲しいことです。まして自分もいつかは死ぬと分かっているから余計に愛（かな）しいのです。

「いのち」とであう

悲しみを共有することから生きていく力が湧いてきます。死の悲しみを通して人間には生きていく力が受け継がれていきます。これが死で終わりを告げることのない、すべての人に通底した「いのち」です。

「いのち」とであうこともまた奇跡です。自分と深く関わり合った人の死をしっかりと見つめて、「いのち」とであうこと、これが人生の大切な道しるべです。

※終末期ケアを行う施設のこと。

プロフィール

1951（昭和26）年、岩手県生まれ。大阪医科大学卒業。自治医科大学消化器一般外科講師を経て、1993（平成5）年淀川キリスト教病院外科医長。父親をホスピスで看取った後、1996（平成8）年ホスピス医に転向。2004（平成16）年、自らも腎がんで右腎摘出手術を受けた。自らの体験を顧みつつ、「死の前では誰もが平等、お互いさま、弱さを共にする」をモットーにしたケアを心がけている。

子どもの自殺を一人でも少なくするために

学校法人四天王寺学園
小学校中学校 カウンセラー
阪中 順子さん

子どもの自殺の現状と予防教育

ここ10年の中高校生の自殺率は過去最悪にまで上昇し、ハイリスクな子どもたちへの関わりが、学校においても避けて通れない課題になっています。交通安全や薬物乱用防止などの予防教育が多くの学校で毎年実施されていますが、自殺者数は交通事故死者数の約6倍に上るという深刻な状況にもかかわらず、自殺予防教育はほとんど実施されてきませんでした。2016(平成28)年の自殺対策基本法の改正で、学校に対して自殺予防教育に努めるよう示されたことを受け、自殺予防教育に取り組み始める教育委員会や学校も出てきました。

私自身は、20年近く、子どもたちといのちの危機について試行錯誤しながら考えてきました。子どもの自殺予防においては、「心の危機理解(心の危機に気づく)」と「援助希求(助けを求める)」の促進が大切であると考えています。このことは、大人にとっても同様です。

SOSを発しやすい環境づくり

虐待の事案(厚木男児放置死事件2014年)においても、「父親がSOSを出す力がなかった。周囲を信頼する力が弱く、自分のおかれている困難な状況を見せられなかった。一方、彼なりの努力が適切なものにならなかったのは、孤立していたのが大きい」と、ルポライターの杉山春子さんは報告しています。また、自殺希少地域の徳島県旧海部町(現海陽町)について、「病気や悩みなどの弱みを早めにおおっぴらにすれば、誰かが助けてくれる『助けを求めやすい』環境(『病』市(いち)に出せ※1)がある、町の人が周囲の人たちに監視ではない関心をもっている」という和歌山県立医科大学の岡檀さんの指摘もあります。

自殺予防教育の推進にあたっては、かかわる大人が子どもにとってSOSを発するだけの信頼できる存在であるかどうかが問われます。そのためには、励ましや叱責の前に、子どもを認め理解しようとする姿勢が不可欠であることを痛感してきました。子どもたちが安心して悩める、そして自分だけでは解決できそうにない問題に出遭ったときには、人の助けを求めることができる環境をつくることが、大人の役目ではないかと考えています。

未来を生き抜く力

自殺予防教育は、今危機にある子どもの自殺を減らすだけでなく、生涯にわたる精神保健の基礎ともなるものです。自分自身の自殺の危険を切り抜ける力や危機にある身近な友人を支える手だてを身につける点において、「未来を生き抜く力」を育む教育と言い換えることができるのではないでしょうか。

※1 旧海部町に伝わる言葉。

プロフィール

大阪生まれ。2011(平成23)年まで公立小中学校教諭。臨床心理士、学校心理士スーパーバイザー。日本自殺予防学会理事。2006(平成18)年より文部科学省「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」委員。著書『学校現場から発信する子どもの自殺予防ガイドブック』(金剛出版)他。

◆いのちの電話・自殺防止電話相談のご案内◆

あなたは決して一人ではありません。お悩みのある方は、下記相談窓口をご活用ください。

兵庫県いのちと心のサポートダイヤル	078(382)3566	月～金 18:00～翌日 8:30　土・日・祝 24時間
神戸いのちの電話	078(371)4343	月～金 8:30～21:30　土 8:30～日 16:30(32時間) 祝　日 9:30～16:30　第4金 8:30～翌々日(日曜) 16:30(56時間)
はりまいのちの電話	079(222)4343	毎日 14:00～翌日 1:00
自殺予防いのちの電話	0120(783)556	毎月10日 8:00～翌日 8:00
働き盛り層SOSダイヤル こころの電話相談	078(362)0050	3月1日(水)～31日(金) 13:00～20:00
兵庫県電話夜間法律相談	078(341)9600	第2、第4日曜日　17:00～21:00

”人“を大切にする支援

神戸大学持続的災害支援プロジェクトKonti代表
稲葉（いなば） 滉星（こうせい）さん

東北で知ったこと

2013(平成25)年、神戸大学の建築学科に入学した私は、街の様子を見たいという気持ちだけで東北へ行くことを決めました。その頃ちょうど東北へボランティアバスを派遣している団体と出会い、どうせ行くならば何か力になれたらという思いを持ってバスに乗り込みました。

2年生の時期にはその団体の副リーダーをし、3年生では代表をさせていただきました。そのおかげで数多くの現地の方と出会い、様々な話を聞き、団体の運営の仕方を学びました。

現地の方の話の中で自分が最も気になったことは、震災から5年が過ぎてもまだ家族や友人、知人の死を受け容れられないという方が多くおられることでした。

この時思った「もし地元や今住んでいるところで地震が起きたら、自分の好きな人たちを守れるようになりたい」という気持ちが、常に私の活動の原点にあります。

この目標を達成するため、神戸で友人とともに非常食の試食をするイベントを開いてみるなど試行錯誤を繰り返していた時、熊本地震が起こりました。

4月だったこともあり、地震のことよりも新学年の生活に慣れることに集中していた私を熊本の支援に引き寄せてくれたのは、一人の後輩の存在でした。ちょうど2016(平成28)年の一月に一緒に東北へ行った後輩の実家が、今回の地震で大きな被害を受けた西原村にありました。彼女は地震後、当初から、不安そうな顔をしながら、神戸から救援物資を送るなどできる限りのことをしていました。

彼女を見ていて感じたことは、遠くに住んでいる人はもどかしくて心配で、やりきれない気持ちになる、ということでした。「何かしたい」、そう感じた学生がすぐに動くことができる仕組みを作りたいと考えるようになり、「Konti」を設立しました。そのため、現在団体のメンバーの多くは九州出身の学生で構成されています。

一人ひとりを大切にする

現地で行うことは、家財道具の片付け、農業支援から、集会所での音楽コンサート、子ども向け工作やご家庭への広報誌配りなど、多岐にわたります。その中で大切にしていることは、どの活動も相手は「人」であるということです。

例えば農業支援をする時でも、農作業が進むことが目的ではなく、地震の影響で今も農作業に追われている「人」に学生と作業をすることで、少しでもゆとりのある時間を過ごしてもらうことが大切だと考えています。

また、何をする時でも被害を受けた人は「普通の人」であり、まとめて考えずに、個性があることを意識しながら支援をしています。

ゆっくりな人も、前向きな人もいるのは、どの場所でも変わらないものです。一人ひとりに寄り添ったボランティアを継続していきたいと思います。

1994(平成6)年、愛知県生まれ。神戸大学工学部4年。東北でのボランティア活動に参加し、2016(平成28)年5月に同団体を設立。現在のメンバーは10人。

連絡先 kobekonti@gmail.com

解体前の家屋から運び出した家具を入れるテントの設営

阪神淡路大震災の時から受け継がれてきた足湯。心もほっこり温まって、リラックス

新着図書紹介

聖（さとし）の青春

著者　大崎善生

発行所　株式会社KADOKAWA

難病と闘いながら将棋に人生を賭け、29歳の若さで亡くなった棋士・村山聖（さとし）の生涯を描いたノンフィクション小説。

聖は幼少時より「ネフローゼ」という腎臓の難病を患っており、無理のきかない自らの重い身体と闘いながら、将棋界最高峰のタイトル「名人」を目指して快進撃を続けていました。

そんな聖の前に立ちはだかったのは、将棋界に旋風を巻き起こしていた同世代の天才棋士・羽生善治（はぶよしはる）。初めての対局で、聖は必死に食らいついたものの、結局負かされてしまいます。

プロ棋士として同世代のライバル棋士たちと死闘を繰り広げ、まさに命を削りながら将棋を指した村山聖の壮絶な一生が描かれています。「生きる」ことについて考えさせられる感動の一冊です。

2016(平成28)年に、松山ケンイチ主演で映画化されました。

1000人プロジェクトにご協力ください！

～2020年、日本中に「絵本アートセラピスト」を増やすために～

一般社団法人道しるべ 理事
更家（さらいえ） なおこさん

日本には「安心して気持ちを話せる場」が非常に少ないと感じています。「自分の居場所がない」と思うと、人はとても孤独でつらいと感じ、生きる気力すら弱まるものです。

そんな中、絵本が「心」と「命」を自分で守るためのきっかけづくりになることを、私は被災地で教えてもらいました。

東日本大震災の一ヵ月後、全国から集めた絵本と共に宮城県の沿岸部に入ると、見渡す限り何もない風景…阪神淡路大震災との違いに声を失いました。でも泥の中を見ると、おもちゃやDVD、お茶碗…さっきまでそこにあったはずの暮らしを一瞬にして失ったという点では何ら変わらないことに気づきました。

〈絵本で心の荷物を置く〉

初めて避難所で絵本を読んだ時、疲れ切った大人が絵本で心をほぐされることを知りました。子ども達が緊張のあまり絵本を見る余裕の無い中、沢山の大人が集まりました。

「この絵本、いいわね。いただけるかしら」と言ってくれた年配の女性は全てを失い途方に暮れる中、人の声のぬくもりと絵本の世界にほっとして安心できたと言うのです。その後6年近く石巻市、仙台市荒浜地区、南相馬市などで、仮設住宅を中心に現在も絵本を使ったワークを続けています。

心に苦しみを抱えている方は、安心して気持ちが話せる「場」に入ると「語られなかった物語」を共有してくれます。その様子を見てセラピー絵本「道しるべ」の出版を決意し、被災地の絵本ワークに取り入れることにしました。気持ちを引き出すツールがあればより多くの方の心が整うと思ったのです。

〈絵本アートセラピスト誕生の背景〉

これらの活動はストレス社会で弱った大人の心を整える絵本教室に発展し、「一般社団法人道しるべ」に引き継がれました。教室では絵本の共有とともに、長年人材育成コンサルタントとして培ってきた心理メソッドを用いたワークに人気が集まり、東京・東北・芦屋教室に展開しました。

現在は絵本で気持ちを伝え合う「場」作りができる、「絵本アートセラピスト」を養成し、体験セミナーやイベントを通じて全国に仲間を増やしています。

〈自分の命は自分で守る〉

もう一つの活動は「てんでんこ」です。自分の命は自分で守るという防災意識ですが、東日本では多くの方が大切な人を迎えに行き、あるいは自分は大丈夫だと逃げずに亡くなりました。絵本の活動を伝える講演会や絵本教室では被災地出身の生徒作品をきっかけに、必ずこの話をして、「家族や職場で日頃の話し合いがいかに重要か。大切な人は必ず逃げていると信じ合えることが防災。『逃げろ』と叫んでまず自分が逃げることで、他者を助けられる」と伝えています。

今、日本中で震災や悲惨な事件等に心を痛め苦しむ方が増え続けています。絵本で自分の心と命を守るために、各都道府県に20人の絵本アートセラピストを養成する「1000人プロジェクト！」の実現にぜひご協力ください。

福島県南相馬市での絵本読み語りワークを行う更家さん

プロフィール

芦屋市在住。絵本アートセラピスト養成トレーナー。大阪芸術大学芸術学部卒業。東日本大震災直後から現地入りし、絵本を使った被災地支援を展開中。大阪総合デザイン専門学校にて10年間絵本作家を養成。大手企業にて人材育成コンサルティング、研修講師を経験し全国の受講者は1万5千人以上。ニッサン童話と絵本のグランプリ優秀賞、アンデルセンのメルヘン大賞等受賞多数。JXグループ主催「童話の花束」第2回審査員。著書にセラピー絵本『道しるべ』（白馬書店）など。

一般社団法人　道しるべ　検索

「人身取引」への理解を深める

きずなトピック

市民共同法律事務所 弁護士
吉田 容子さん

「人身取引」とは、搾取の目的で、暴行、脅迫、欺罔※1、誘惑、権力の濫用、脆弱な立場の利用、金銭授受等の手段を用いて、人を獲得、輸送、引渡し、蔵匿※2、収受する行為をさします。※3

被害者は世界中で数百万人と推計され、その多くは社会的・経済的に弱い立場にある人達で、女性や子どもだけでなく男性も含まれます。加害者は犯罪組織や悪質なブローカーに限られず、軽い気持ちで金儲けを企む一般の人達もこの犯罪行為に加担しています。被害者にとって重大な人権侵害であり、加害者に莫大な収益をもたらすことから、国連や日本を含む各国がその防止と取締に向けて取り組んでいます。

日本での近時の検挙事例には、

①援助交際等をしていた日本人女性を、覚せい剤等で薬漬けにし、その代金支払い等を口実に、加害者の監視下で売春を強要し、売春の報酬を全額取り上げた。

②日本のマッサージ店で働かないかと誘ってタイ人女性を来日させ、事前の説明なく多額の借金を負わせ、その返済を口実に、客への性的マッサージを強要した。

③日本の工場で働かないかと誘ってフィリピン人女性を来日させ、ブローカーが日本人男性に結婚相手等として売り渡した。

④ジャパニーズ・フィリピーノ・チルドレンの支援（日本人父による子の認知、親子とも日本で暮らせる在留資格の取得等）を口実にフィリピン人母子を来日させ、低賃金でホステス等として働かせた。

⑤児童らをマンションに居住させ、インターネットを通じて募集した客との売春を強要し、逃げ出すと電話で「親にばらす」等と脅迫して連れ戻し、売春代金全額を取り上げた。

といった性的搾取、強制労働等があります。

人身取引の手口はより巧妙になり、被害が潜在化しています。私達の周囲に被害に苦しむ人達がいるはずです。被害者が「救い」を求めてきたり被害者らしい人をみつけたりしたら、最寄りの警察署や入国管理局に連絡してください。「人身売買禁止ネットワーク」、「移住者と連帯する全国ネットワーク」など解決に向け尽力している民間団体の活動にも、関心と協力をお願いします。

※1 人を欺くこと。
※2 人に知られないように隠しておくこと。
※3 国際組織犯罪防止条約人身取引議定書3条参照。

人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）事務局
連絡先 info@jnatip.jp
所在地 東京都台東区上野 1-12-6 3F 移住者と連帯する全国ネットワーク気付

プロフィール

東北大学法学部卒業。1985年弁護士登録（京都弁護士会所属）。日本弁護士連合会「両性の平等に関する委員会」委員。女性や外国人への法的支援、特に女性に対する暴力の事件を多数扱う。2007（平成19）年から立命館大学法科大学院教員。人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）共同代表。

映画紹介

ショコラ ～君がいて、僕がいる～

人種差別がまかり通っていた20世紀初めのフランスを舞台にした実話。黒人の尻を蹴る白人（フティット）と、蹴られて驚く黒人の道化師コンビが登場します。2人の芸は多くの人を魅了していきます。黒人の芸名はショコラですが、だれも本名を気にしていません。

奴隷として生まれ、サーカスに拾われたショコラは、CM写真に起用されるなど、スターとしての地位を築くことに成功します。それでも不法滞在で逮捕され拷問まで受けるなど、現実社会での差別は厳しく、ついには酒とギャンブルに溺れ、フティットとのコンビも解消してしまいます。

転落していくショコラにとっての救いは、周囲の偏見に耐えて愛しぬいてくれた妻と、フティットとの友情、かつての栄光でした。

フティット役のジェームス・ティエレはチャップリンの孫。ショコラ役のオマール・シーとの道化師芸は、映画の演技を越えて出色です。

監督：ロシュディ・ゼム
出演：オマール・シー、ジェームス・ティエレ、クロチルド・エム。
119分
2月25日からシネ・リーブル神戸で公開。

●問い合わせ
シネ・リーブル神戸 078(334)2126

©2016 Gaumont / Mandarin Cinéma / Korokoro / M6 Films
配給 東北新社 STAR CHANNEL MOVIES

のじぎく文芸賞作品集が完成しました

県民の皆さんの人権意識の高揚を図るため、兵庫県と協会が毎年公募する「のじぎく文芸賞」。このたび、平成28年度の最優秀賞4編、優秀賞8編を収録した作品集が完成しました。図書館や市役所等の公共施設、県立のじぎく会館などで閲覧することができます。また、協会ホームページでも閲覧できますので、ぜひご覧ください。また、人権啓発や研修の場でもご活用いただければと思います。

問い合わせ先 (公財)兵庫県人権啓発協会 啓発・研究部　TEL078(242)5355　FAX 078(242)5360

古山桂子審査委員長の総評(一部抜粋)

…率直で、真摯で、和やかで、子どもらしくて…。いろいろな形容はありますが、通底しているのは、人間だけでなく動物にも植物にも、自分を取り巻くすべてに向けた優しさです。

作品を一点一点読み進むうちに、引き込まれて時間を忘れていました。これが筆力というものでしょう。人権問題はそのまま文章にすると、文芸にはなりがたいものです。理屈で差別はダメといっても、それは頭だけ。読む側が引き込まれるのは、その書き手の日頃の思い、体験などを総合した人間力によるとでもいえましょうか…。

イベントガイド

その他のイベント情報は、当協会ホームページ「研修会・イベント情報」をご覧ください。

自殺対策強化月間	働き盛りの職場メンタルヘルス研修会	日時 3月3日(金)14:00～16:30 会場 クリスタルホール(神戸クリスタルタワー3階) ※JR「神戸」駅から徒歩5分 内容 講演「若者のメンタルヘルスと休職対応を学ぶ」 講師 株式会社iCARE 代表取締役CEO 山田洋太さん ※事前申込要(いのち対策室までお問い合わせください。)	問い合わせ 兵庫県健康福祉部 いのち対策室 TEL 078(362)3060 FAX 078(362)3911
	こころの健康相談会	日時 3月6日(月)11:00～16:00 会場 若者しごと倶楽部(神戸クリスタルタワー12階) ※JR「神戸」駅から徒歩5分 日時 3月17日(金)9:30～16:00 会場 ハローワーク神戸 ※JR「神戸」駅から徒歩5分 内容 両会場とも精神保健福祉士等によるこころの健康相談会	
	第5回 映画鑑賞会	日時 3月26日(日)第1回 13:30～ 第2回 18:30～(上映時間106分) 会場 豊岡市立日高文化体育館 小ホール(豊岡市日高町祢布954-6) ※JR山陰本線「江原」駅から徒歩15分 内容 平成25年度(第68回)文化庁芸術祭大賞受賞映画『みんなの学校』を上映 入場料 500円(当日券600円) 中学生以下無料	問い合わせ 特定非営利活動法人 コミュニティ日高 TEL/FAX 0796(42)2505

人権に関する川柳

テーマ いのち

災害に
　備えて広げる
　　近所の輪
やさしさで
　救えるいのち
　　そこにある
(明石市　石垣貝さん)

ハーフタイム half time

大切ないのちを支えるために、さまざまな分野で活動されている方々を頼もしく思います。悩み、苦しみ、生きづらさを感じる社会は望ましいものではありません。本号の編集作業は、一人ひとりが大切にされる社会について改めて考える機会になりました。

今年度もきずなをご愛読いただきまして、ありがとうございました。今後も多様化する人権課題を読者のみなさまに、より身近に感じていただき、ともに考えていけるような編集を心掛けていきます。来年度もよろしくお願いいたします。　(小池)

＊「人権川柳」は本号で終了します。多数ご応募いただきまして、ありがとうございました。
＊きずな4月号の発行は4月5日の予定です。

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

(公財)兵庫県人権啓発協会　〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078(242)5355　FAX 078(242)5360　info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会　検索

2017(平成29)年3月発行